

## 学会だより

### ◇ 会員の榮譽

辻本 壽会員が「日本農学賞 / 読売農学賞」を受賞

本会会員の辻本 壽氏（鳥取大学乾燥地研究センター）は「野生種遺伝子の導入による新規コムギ開発と国際育種への展開」に関する功績により、2024年度「日本農学賞 / 読売農学賞」を授与されました。

日本農学賞は、農学上顕著な業績を挙げたものに対して日本農学会から贈られるものです。授賞式は、4月5日に東京大学農学部弥生講堂で行われました。

中村俊樹会員が「日本農業研究所賞」を受賞

本会会員の中村俊樹氏（農研機構・東北農業研究センター）は「モチ小麦等新形質小麦の開発と社会実装」の業績により、第31回（令和5年度）「日本農業研究所賞」を授与されました。

日本農業研究所賞は、農業に関する学術研究上顕著な業績をあげ、かつ農業の発達のため優れた業績をあげた個人に対して授与されます。授賞式は、5月10日にホテル・ルポール麹町で行われました。

### ◇ 令和6年度第1回運営委員会議事録

日時：2024年2月24日（土）13:00～16:30

場所：東京大学弥生講堂会議室およびオンラインでの開催

出席者：加藤謙司、中園幹生、佐々英徳、西田英隆、高橋宏和、渡邊和男、岩田洋佳、津釜大侑、吉岡洋輔、久保友彦、北柴大泰、犬飼義明、清水顕史、草場信、山形悦透、堀清純、辻寛之、掛田克行、寺石政義、磯部祥子、川浦香奈子、小出陽平、門田有希【23名】

欠席者：半田裕一【1名】

各運営委員からの活動経過報告の後、以下の事項について審議された。

- ①石原（志方）守一奨学金の選考（総務）
- ②令和6年度予算案（会計）
- ③新編集委員（5名）の推薦（英文誌）
- ④講演要旨校正作業（集会）
- ⑤次期開催校引継ぎ会議参加者（集会）
- ⑥開催校持ち回り品（集会）
- ⑦記者発表関連スケジュール（記者発表）

### ◇ 第17回代議員会議事録

日時：2024年3月9日（土）午後1時00分～午後5時

35分

場所：オンライン開催

（令和4・5年度 理事・運営委員・監事・各種委員）

出席者：加藤謙司、中園幹生、佐々英徳、西田英隆、高橋宏和、岩田洋佳\*、津釜大侑、半田裕一\*、吉岡洋輔、久保友彦\*、北柴大泰\*、犬飼義明\*、清水顕史\*、草場信\*、堀清純、辻寛之、掛田克行\*、寺石政義、磯部祥子、川浦香奈子\*、小出陽平、門田有希、畠山勝徳、富田因則、奥本裕、久保山勉\*【26名】

欠席者：渡邊和男\*、山形悦透\*【2名】

（令和4・5年度 代議員）

出席者：久保友彦\*、大西一光、貴島祐治、金澤章、赤木宏守、阿部陽、北柴大泰\*、田中克典、深井英吾、宇賀優作、福岡修一、江花薫子、吉田均、久保山勉\*、加賀秋人、佐藤正紀、井澤毅、有村慎一、岩田洋佳\*、伊藤純一、川浦香奈子\*、犬飼義明\*、村井耕二、佐藤豊、掛田克行\*、佐塚隆志、古川一実、那須田周平、清水顕史\*、半田裕一\*、草場信\*、辻本壽、山本敏央、藤田大輔【34名】

委任状：石井卓朗、渡邊和男\*、松田靖、緒方大輔【4名】

欠席者：中村郁郎、中崎鉄也、山形悦透\*【3名】

（令和6・7年度 代議員）

出席者：久保友彦、山田哲也、小出陽平、加藤清明、阿部陽、笹沼恒男、深井英吾、田中克典、堀清純、加賀秋人、吉岡洋輔、津田麻衣、溝淵律子、江面浩、井川智子、平野久、大西孝幸、岩田洋佳、井澤毅、伊藤純一、有村慎一、堤伸浩、犬飼義明、村井耕二、古川一実、佐塚隆志、佐藤豊、富田因則、築山拓司、石川亮、那須田周平、横井修司、山本敏央、門田有希、杉田（小西）左江子、一谷勝之、谷中美貴子、渡辺啓史【38名】

欠席者：高橋秀和、石井卓朗、山形悦透【3名】

(\* 役員・委員と代議員を兼任)

議長：代表理事（加藤謙司）

議事録：総務担当運営委員（高橋宏和）

出席者数は代議員会の定足数を満たしていた。

#### 1. 報告事項

(ア) 役員（理事2名および監事2名）の退任

(イ) 令和6・7年度代議員選挙結果

(ウ) 令和6・7年度会長・副会長暫定候補者意向投票結果

(エ) 令和6年度学会賞等選考委員候補者意向投票結果

(オ) 令和6・7年度シンポジウム委員候補者意向投票結果

(カ) 令和6・7年度運営委員の選出

(キ) 運営委員会報告（各運営委員）

総務：会員数，冊子発行部数，Web サイト・メールニュース，シニア会費制度利用申請，事業監査，各種委員推薦，受賞者紹介，次期代議員選出，次期会長・副会長暫定候補者，次期学会賞等選考委員候補者，次期シンポジウム委員候補者の意向投票，石原（志方）守一奨学金受賞者，会議開催予定

IT・HP：Web サイトのアクセス解析結果

科研費：研究成果公開発表（シンポ科研費）の申請状況，日本学術振興会による実地調査

会計：2023 年度決算報告，会計監査

編集（英文誌）：編集状況（受付状況，採択状況，J-Stage・PubMed アクセス数），特集号・企画総説の進捗状況，SNS 情報発信，編集委員マニュアルと査読規定，編集体制

編集（和文誌）：編集状況（原稿受付・取扱状況，発行状況，J-Stage アクセス数），編集体制

集会：2024 年春季大会，今後の大会開催予定，講演要旨校正の省力化，次期開催校引継ぎ会議への参加者の変更，講演会持ち回り備品の購入・整理，他学会情報，講演会における講演数および参加者数の推移

農学会：2024 年度日本農学賞 / 読売農学賞受賞，2024 年度日本農学大会の開催予定，2024 年度日本農学会シンポジウムの実施案，2023 年度日本農学会シンポジウム講演要旨の公開

記者発表：第 145 回講演会記者発表の開催予定日時・方法，記者発表対象課題，記者発表希望演題数，記者発表関連スケジュール

LMO・ABS：LMO 関連，ABS 関連，国際法運用交渉関連

地域（北海道，東北，中部，近畿，中国・四国，九州・沖縄）：談話会の開催および開催予定

(ク) 令和 5 年度事業報告

(ケ) 令和 5 年度事業・会計監査結果の報告

## 2. 審議事項

(ア) 特別決議議案：次期会長（代表理事）の選任について

会長暫定候補者である中園幹生氏の会長就任について審議の結果，承認された。

(イ) 特別決議議案：次期副会長（理事）の選任について

副会長暫定候補者である福岡浩之氏の副会長就任について審議の結果，承認された。

(ウ) 特別決議議案：監事の選任について

奥本裕氏および川浦香奈子氏の監事就任について審議の結果，承認された。

(エ) 通常決議議案：令和 6 年度学会賞等選考委員について

代議員による意向投票で下記の委員候補者および補充委員候補者が選出され，審議の結果，承認された。

委員候補者（6 名）：井澤毅，佐藤豊（遺伝研），堤伸浩，江面浩，加賀秋人，岩田洋佳

補充委員候補者（3 名）：久保友彦，山本敏央，那須田周平

(オ) 通常決議議案：令和 6-7 年度シンポジウム委員について

代議員による意向投票で下記の委員候補者が選出され，審議の結果，承認された。

委員候補者（5 名）：犬飼義明，山本敏央，辻寛之，内藤健，畠山勝徳（岩大）

(カ) 通常決議議案：令和 6-7 年度のその他委員等の選出について

下記の委員候補者が選出され，審議の結果，承認された。

男女共同参画推進委員会委員長：岩田洋佳（東京大学）

LMO・ABS 委員会委員長：渡邊和男（筑波大学）

日本農学会関連評議員：中園幹生（名古屋大学）

福岡浩之（タキイ種苗）

日本農学会運営委員：岩田洋佳（東京大学）

＊男女共同参画推進委員会，LMO・ABS 委員会，男女共同参画学協会連絡会の委員は，各委員長と三役で検討・選任する。

(キ) 代議員会に関する運営内規の変更について

運営内規 C 4 項（理事の人数）を定款の表記に合わせて「2 名以内」に変更することが提案され，審議の結果，承認された。

(ク) 通常決議議案：2024 年度（令和 6 年度）予算案について

予算案について審議の結果，原案通り承認された。

(ケ) 通常決議議案：新編集委員の推薦

審議の結果，下記 5 名の新編集委員の就任が承認された。

海外編集委員：Michael Gomez Selvaraj 氏

編集委員：井澤毅氏，白澤健太氏，寺石政義氏，掛田克行氏

(エ) 通常決議議案：その他

無し

## 3. その他

(ア) 関連報告

①学会賞等選考委員会

表彰規定関連の運営内規変更とこれに伴う学会賞・奨励賞候補者推薦依頼文の変更について報告された。

②シンポジウム委員会

第 64 回シンポジウム・ワークショップの特集記事準備状況，新旧委員の引き継ぎと第 65 回シンポジウム・ワークショップの準備について報告があった。記念事業の企画・検討の要望があった。

③男女共同参画推進委員会

第 145 回講演会で開催する会議で新旧委員による引き

継ぎを行う予定であることが報告された。また、今回の学会賞等選考委員とシンポジウム委員を選出する際にジェンダーバランスに留意するよう次期代議員に対して要望があった。

#### ④公益財団法人農学会農学教育推進委員会委員

JABEE 修了者の技術士第二次試験受験状況について報告があった。

(イ) その他

#### ①総務

第 145 回講演会優秀発表賞の選考について投票依頼とオンライン投票方法について説明があった。

### ◇ 第 145 回講演会選定課題記者発表報告

発表日時：令和 6 年 3 月 14 日（木）13:00～14:30

発表場所：東京大学農学部キャンパス 1 号館 100 番教室とオンラインのハイブリッド形式

出席者：佐々英徳（幹事長）、津釜大侑（記者発表担当運営委員）、石川隆二（課題 1）、川田ゆかり（課題 2）、久保山勉（課題 3）、間野吉郎（課題 4）

参加報道機関：共同通信社、化学工業日報社、科学新聞社の計 3 社・3 名

令和 6 年 3 月 16 日（土）、17 日（日）に東京大学で開催される日本育種学会第 145 回講演会の講演課題（計 186 課題）の中から運営委員会によって選定された以下の 4 題について、記者会見を実施した。

発表タイトル（記者発表）：

(1) 昨年的高温に対して高品質のおコメが期待される新品種開発と、さらに健康機能性や次世代のバイオ燃料の供給源としての新規系統育種

(2) サツマイモ基腐病に強い抵抗性を有する青果用新品種「べにひなた」の育成および普及に向けたウイルスフリー系統の作出・選抜

(3) 熱帯原産のアサガオが日本でも開花できるようになった原因突然変異の特定

(4) 近縁種テオシントを利用したトウモロコシの耐湿性育種の取り組み

講演タイトル（第 145 回講演会）：

(1) 講演番号 312 「高温登熟下における胴割れ耐性品種育成と同系統に作出した巨大胚ならびに高脂肪胚乳による付加価値創出」石川隆二、ディンティラム（弘大・農生）

(2) 講演番号 314 「サツマイモ基腐病に強い抵抗性を有する青果用サツマイモ新品種「べにひなた」の育成およびウイルスフリー系統の作出と選抜」川田ゆかり<sup>1</sup>、境垣内岳雄<sup>1</sup>、末松恵祐<sup>1</sup>、甲斐由美<sup>1</sup>、境哲文<sup>1</sup>、高畑康浩<sup>1</sup>、榎本真<sup>2</sup>、小林晃<sup>1</sup>（1. 農研機構・九州沖縄農業研究センター、2. カネコ種苗（株））

(3) 講演番号 413 「アサガオが温帯アジアに分布するのに必要だったと推定される *InCO* のフレームシフト変異」

勝山弘章<sup>1,5</sup>、江面恭佑<sup>1,6</sup>、星野敦<sup>2,3</sup>、仁田坂英二<sup>4</sup>、久保山勉<sup>1</sup>（1. 茨大・農、2. 基生研、3. 総研大、4. 九州大学大学院理学研究院、5. 筑波大・生命環境、6. 茨城県南農林事務所）

(4) 講演番号 P057 「トウモロコシ F<sub>1</sub> 品種「ゆめそだち」にテオシント *Zea nicaraguensis* の湛水・還元耐性に関わる 2 つの QTL を導入した F<sub>1</sub> 系統の作出と QTL の集積効果の検証」今瀬諒司<sup>1</sup>、高橋秀和<sup>2</sup>、大森史恵<sup>1</sup>、間野吉郎<sup>1</sup>（1. 農研機構・畜産研究部門、2. 福島大・食農学類）

佐々と津釜が諸注意を述べた後、それぞれの課題の発表者がレジュメを用いて発表内容について自ら説明し、質疑応答を行った。

### ◇ 石原（志方）守一奨学金受賞報告

運営委員会で審議の結果、以下の 4 名の優秀発表賞受賞者を令和 4 年度の石原（志方）守一奨学金受賞者と決定した。

【第 143 回大会】

講演番号 614：曳地究（北大・院・農学研究院）

講演番号 226：牧野葵（東京大・院・農学生命科学）

【第 144 回大会】

講演番号 118：工藤葵（京大・農学研究科）

講演番号 520：岡大晴（岡山大・資源植物科学研究所）

### ◇ 第 143 回講演会日本育種学会優秀発表賞報告

2024 年日本育種学会春季大会（第 145 回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の 9 演題に決定された。

講演番号 104：交雑起源の検証に向けたアラインメントフリーな新手法の開発

☆美濃地弘樹<sup>1</sup>、堺俊之<sup>1</sup>、太田敦士<sup>1</sup>、杉原優<sup>2</sup>、工藤葵<sup>1</sup>、寺内良平<sup>1,3</sup>（1. 京都大・院農学、2. The Sainsbury Laboratory、3. 岩手生工研）

講演番号 109：ダダチャマメにおける良食味関連 QTL の同定と責任遺伝子の推定

☆塩谷直弘<sup>1</sup>、横山紗季<sup>2</sup>、高木悠太<sup>1</sup>、宮城敦子<sup>1,2</sup>、川合真紀<sup>3</sup>、小木曾映里<sup>4</sup>、星野友紀<sup>1,2</sup>（1. 山形大・院農、2. 山形大・農、3. 埼玉大・院理工、4. 科博・分生多研資セ）

講演番号 114：ソルガムにおけるアブラムシ耐性に関する遺伝子探索

☆乾倫之右、石森元幸、田中瑤人、牧野葵、山田淳子、堤伸浩、高梨秀樹（東京大学大学院農学生命科学研究科）

講演番号 117：ウンシュウミカンのクローナル進化におけるゲノム構造の比較解析

☆松田倫果<sup>1</sup>、増田佳苗<sup>1</sup>、Isabelle Henry<sup>2</sup>、Luca Comai<sup>2</sup>、赤木剛士<sup>1</sup>（1. 岡山大・院環境生命自然科学研究科、2.

カリフォルニア大・デービス校)

**講演番号 401**: 葉緑体ゲノム標的塩基編集による, 除草剤メトリブジン耐性シロイヌナズナの作出

☆中里一星<sup>1</sup>, 矢守航<sup>1</sup>, 松村浩由<sup>2</sup>, 奥野未来<sup>3</sup>, 堤伸浩<sup>1</sup>, 有村慎一<sup>1</sup> (1. 東大・院農生, 2. 立命館大・生命科学, 3. 久留米大・医)

**講演番号 406**: 遠位シス制御因子による開花抑制遺伝子 *Ghd7* の転写調節

☆河内匠<sup>1</sup>, 小郷裕子<sup>2</sup>, 三村真生<sup>3</sup>, 井澤毅<sup>3</sup> (1. 東京大学農学部, 2. 農研機構・野菜花き研究部門, 3. 東大・院農学生命科学)

**講演番号 411**: サツマイモにおいて未だ発見されていないネコブセンチュウ抵抗性遺伝子の機能証明に向けた形質転換体の作出

☆泉谷真<sup>1</sup>, 大谷基泰<sup>2</sup>, 中谷内修<sup>2</sup>, 田淵宏朗<sup>3</sup>, 西田英隆<sup>1</sup>, 加藤謙司<sup>1</sup>, 西村和紗<sup>1</sup>, 門田有希<sup>1</sup> (1. 岡山大・院環境生命自然, 2. 石川県大・生資研, 3. 農研機構・九沖研)

**講演番号 505**: アフリカ野生イネ *Oryza longistaminata* に見出された雑種不稔遺伝子 *SI3* の単離

☆高西若菜, ジン マー ミント, 貴島祐治, 金澤章, 小出陽平 (北海道大学大学院農学院)

**講演番号 514**: キャッサバ塊根澱粉合成酵素の機能特性

☆内海好規<sup>1</sup>, 内海稚佳子<sup>1</sup>, 田中真帆<sup>1,2</sup>, 土橋竜也<sup>3</sup>, 藤原英樹<sup>3</sup>, 関原明<sup>1,2,4</sup> (1. 理研・環境資源科学研究センター, 2. 理研・開拓研究本部, 3. 松谷化学工業株式会社, 4. 横浜市大・木原生物学研)

## ◇ 地域談話会だより

### 〈北海道地区〉

令和5年度総会 日本育種学会北海道談話会年次講演会および総会が2023年12月2日(土)にオンラインで開催されました. 一般演題46題から優秀発表賞2件および奨励賞4件として以下の課題が審査に基づいて選出された.

#### 優秀発表賞

1. キンギョソウとその近縁野生種の組換え自殖系統を用いたトランスポゾンの表現型に対する影響

田邊琉哉・Wang Shasha・Zhou Zhouhang・貴島祐治 (北大院農)

2. 熱画像を利用した水稻多収系統選抜の可能性—シンク形成および登熟期の子実充填能力との関係—

堀越瑞貴<sup>1</sup>・太田裕亮<sup>1</sup>・中島大賢<sup>1</sup>・市川伸次<sup>2</sup>・角田貴敬<sup>2</sup>・柏木純一<sup>1</sup> (1. 北大院農, 2. 北大FSC)

#### 奨励賞

1. アズキ上胚軸の伸長制御に関わる環境応答性の品種間差異

鳥居志帆・カチャピラ モデスター・春日純・川畑翼・

得字圭彦・森正彦 (帯畜大)

2. 春播きコムギ—ダイズ間作体系における種間相互作用が生産性に及ぼす影響

中田智夏<sup>1</sup>・銭程<sup>1</sup>・古賀美羽<sup>2</sup>・市川伸次<sup>3</sup>・平田聡之<sup>3</sup>・中島大賢<sup>1</sup>・柏木純一<sup>1</sup> (1. 北大院農, 2. 北大農, 3. 北大FSC)

3. 北見農試秋まき小麦育成系統の育種データを用いた重要な農業形質と一次加工適性に関するゲノムワイドアソシエーション解析

斉藤涼介<sup>1</sup>・山口直矢<sup>2</sup>・石川吾郎<sup>3</sup>・其田達也<sup>1</sup>・木内均<sup>1</sup>・森田耕一<sup>4</sup>・佐藤優美<sup>1</sup>・大西志全<sup>1</sup> (1. 北見農試, 2. 中央農試, 3. 作物研究部門, 4. 上川農試)

4. 帯広市で栽培したペレニアルライグラスの低温馴化様式

梶田さくら<sup>1</sup>・寺戸貴裕<sup>2</sup>・秋本正博<sup>3</sup> (1. 帯畜大, 2. 家畜改良セ, 3. 帯畜大)

一般講演 2023年12月2日(土) 9:00–11:35, 13:00–16:25, オンライン開催

1. イネ約培養におけるカルス形成と再分化におよぼすFPXの影響

吉田詩遠・岡本吉弘・我妻尚広 (酪農大)

2. キンギョソウとその近縁野生種の組換え自殖系統を用いたトランスポゾンの表現型に対する影響

田邊琉哉・Wang Shasha・Zhou Zhouhang・貴島祐治 (北大院農)

3. 「きたひまり」由来アズキ茎疫病抵抗性遺伝子の座乗領域

佐藤圭<sup>1</sup>・栢森美如<sup>2</sup>・堀川謙太郎<sup>2</sup>・長濱恵<sup>2</sup>・長澤秀高<sup>3</sup>・堀内優貴<sup>3</sup>・相馬ちひろ<sup>1</sup>・鈴木孝子<sup>1</sup> (1. 中央農試, 2. 上川農試, 3. 十勝農試)

4. 2023年中央農試の小豆低収要因と播種期による収量変動

道満剛平・西村努・鴻坂扶美子 (中央農試)

5. アズキ品種の遺伝子型環境相互作用と収量安定性に関するAMMIおよびGGEパイプロット分析

細川優介<sup>1</sup>・長澤秀高<sup>1</sup>・堀内優貴<sup>1</sup>・山口直矢<sup>2</sup> (1. 十勝農試, 2. 中央農試)

6. アズキの草型を制御する主要QTLの特定

坂井瑞基<sup>1</sup>・カチャピラ モデスター<sup>1</sup>・グエントロン<sup>1</sup>・堀内優貴<sup>2</sup>・武岡遼<sup>1</sup>・田村純里<sup>1</sup>・加藤清明<sup>1</sup>・森正彦<sup>1</sup> (1. 帯畜大, 2. 十勝農試)

7. アズキの組換え自殖系統を用いた収量構成要素に関するQTL解析

パウリーノ クロティウデス<sup>1</sup>・更谷有真<sup>1</sup>・矢口陽平<sup>1</sup>・カチャピラ モデスター<sup>1</sup>・グエントロン<sup>1</sup>・堀内優貴<sup>2</sup>・加藤清明<sup>1</sup>・森正彦<sup>1</sup> (1. 帯畜大, 2. 十勝農試)

8. アズキ上胚軸の伸長制御に関わる環境応答性の品種間差異

鳥居志帆・カチャピラ モデスター・春日純・川畑翼・

得字圭彦・森正彦（帯畜大）

9. アズキにおける効率的な組織培養系の確立に向けた取り組み

グエン トロン・中根明日香・田中涼・得字圭彦・森正彦（帯畜大）

10. 北海道とプータンのアズキ品種間の交雑後代で分離する莢色に関わる遺伝子座の解析

伊東航<sup>1</sup>・岡田鈴可<sup>1</sup>・堀内優貴<sup>2</sup>・森正彦<sup>1</sup>・加藤清明<sup>1</sup>（1. 帯畜大, 2. 十勝農試）

11. 栽植密度, 栽植様式がアズキの生育, 収量に及ぼす影響—エリモ 167 およびきたろまんとの比較—

佐々木壱・小林由季・黒瀬大地・松井俊樹・飛谷淳一・義平大樹（酪農大）

12. 栽植様式および栽植密度が長胚軸系統「きたいろは（十勝 180 号）」の収量および収量関連形質に及ぼす影響  
小林由季・佐々木壱・黒瀬大地・松井俊樹・飛谷淳一・義平大樹（酪農大）

13. ダイズの狭畦栽培による増収効果の年次間差異と, その収量関連形質および受光態勢からみた一考察

黒瀬大地・佐々木壱・田中祥太・松井俊樹・飛谷淳一・義平大樹（酪農大）

14. ダイズに対する Twin row および狭畦栽培が収量および受光態勢に及ぼす影響—江別と帯広における地域間の比較—

浅利翔斗<sup>1</sup>・中島未香<sup>1</sup>・佐々木壱<sup>1</sup>・黒瀬大地<sup>1</sup>・松井俊樹<sup>1</sup>・飛谷淳一<sup>1</sup>・松本奈緒子<sup>2</sup>・義平大樹<sup>1</sup>（1. 酪農大, 2. 帯農高）

15. ダイズの栽植密度に対する分枝可塑性と, 栽植様式改良による増収効果との関係

松井俊樹・佐々木壱・黒瀬大地・飛谷淳一・義平大樹（酪農大）

16. 生殖生長期の窒素葉面散布がダイズの生長や収量に及ぼす影響

本田純也・秋本正博（帯畜大）

17. 春播きコムギ—ダイズ間作体系における種間相互作用が生産性に及ぼす影響

中田智夏<sup>1</sup>・銭程<sup>1</sup>・古賀美羽<sup>2</sup>・市川伸次<sup>3</sup>・平田聡之<sup>3</sup>・中島大賢<sup>1</sup>・柏木純一<sup>1</sup>（1. 北大院農, 2. 北大農, 3. 北海道 FSC）

18. ダイズわい化病の発病率に及ぼす気温の影響

鴻坂扶美子<sup>1</sup>・大西志全<sup>2</sup>・黒崎英樹<sup>1</sup>（1. 中央農試, 2. 北見農試）

19. 2023 年気象がラッカセイの出芽および子実の充実におよぼした影響の一考察

上西孝明<sup>1</sup>・前川伊織<sup>1</sup>・大道雅之<sup>2</sup>・工藤久生<sup>3</sup>（1. 拓大道短大, 2. 大道技術士事務所, 3. 小林商事）

20. 飼料用トウモロコシにおける 2 粒播種の成長解析  
今啓人・藤井弘毅・林拓（畜産試）

21. 北海道の水田で発生したウキヤガラについて

菅原彰<sup>1</sup>・石岡康彦<sup>2</sup>・熊谷聡<sup>3</sup>（1. 道総研農研本部, 2.

道農政部, 3. 中央農試）

22. 水稲に対する亜リン酸資材の葉面散布が穂発芽性および米粒品質に及ぼす影響

相澤哉一<sup>1</sup>・安積大治<sup>1</sup>・宗像政美<sup>2</sup>・山本直樹<sup>1</sup>・関俊介<sup>1</sup>（1. サンアグロ, 2. JA 新しのつ）

23. 窒素追肥法が秋播性コムギ「きたほなみ」の収量と品質に及ぼす影響

笠島真也・迫田知夏（東農大）

24. 2023 年の記録的高温下での北海道の加工用馬鈴薯収量

柳沢朗（カルビーポテト）

25. バレイショにおける栽培管理が貯蔵品質に与える影響

佐々木晴充・五十嵐俊哉・森元幸（カルビーポテト）

26. 無農薬条件下でのジャガイモ疫病の感染時期と発病程度：北海道石狩管内江別市における検証（2022 年）

西野嘉・大谷恭子・薦田優香・亀岡笑（酪農大）

27. 減肥栽培が道産飼料用水稲品種の収量構成要素に与える影響

西壱貴・城浦教祐・山崎千智・亀岡笑（酪農大）

28. 高温であった 2023 年の十勝農試の秋まき小麦作況  
嶋正朋（十勝農試）

29. 北見農試秋まき小麦育成系統の育種データを用いた重要な農業形質と一次加工適性に関するゲノムワイドアソシエーション解析

斉藤涼介<sup>1</sup>・山口直矢<sup>2</sup>・石川吾郎<sup>3</sup>・其田達也<sup>1</sup>・木内均<sup>1</sup>・森田耕一<sup>4</sup>・佐藤優美<sup>1</sup>・大西志全<sup>1</sup>（1. 北見農試, 2. 中央農試, 3. 作物研究部門, 4. 上川農試）

30. 異なるコムギ縞萎縮病抵抗性 QTL が及ぼす影響

相馬ちひろ<sup>1</sup>・大西志全<sup>2</sup>・神野裕信<sup>1,2</sup>・阿出川さとみ<sup>1</sup>・鈴木孝子<sup>1,3</sup>（1. 中央農試, 2. 北見農試, 3. 道総研農研本部）

31. 北海道の秋まき小麦におけるコムギ萎縮病ウイルス（SBWMV）の感染に関する基礎調査

堀川謙太郎<sup>1</sup>・阿出川さとみ<sup>2</sup>・相馬ちひろ<sup>2</sup>・鈴木孝子<sup>3</sup>（1. 上川農試, 2. 中央農試, 3. 道総研農研本部）

32. CIMMYT の遺伝資源を利用して育成した多収春まきコムギ系統「北見春 83 号」

足利奈奈<sup>1</sup>・林和希<sup>1</sup>・斉藤涼介<sup>1</sup>・佐藤三佳子<sup>2</sup>・道満剛平<sup>2</sup>・来嶋正朋<sup>3</sup>・平山裕治<sup>2,4</sup>・大西志全<sup>1</sup>（1. 北見農試, 2. 中央農試, 3. 十勝農試, 4. 上川農試）

33. 北海道のもち米における胴割粒発生の品種間差について

粕谷雅志・森田耕一・木下雅文・尾崎洋人（上川農試）

34. 間引処理が多穂型トウモロコシ品種の器官別発育特性と第 2 雌穂発達に及ぼす影響

松村悠生<sup>1</sup>・楊夢凡<sup>1</sup>・森垣拓巳<sup>1</sup>・原澤佑里<sup>2</sup>・市川伸次<sup>3</sup>・柏木純一<sup>1</sup>・中島大賢<sup>1</sup>（1. 北大院農, 2. 北大農, 3. 北大 FSC）

35. 加速度センサを用いた飼料用トウモロコシ地上部の

風応答と耐倒伏性の定量的評価

森垣拓巳<sup>1</sup>・山口寛登<sup>1</sup>・楊夢凡<sup>1</sup>・原澤侑里<sup>2</sup>・松村悠生<sup>1</sup>・柏木純一<sup>1</sup>・友部遼<sup>3</sup>・郭威<sup>4</sup>・加藤洋一郎<sup>4</sup>・市川伸次<sup>5</sup>・中島大賢<sup>1</sup> (1. 北大院農, 2. 北大農, 3. 東工大院, 4. 東大院農, 5. 北大 FSC)

36. 飼料用ソルガム品種「ターザン」の栽植密度反応  
梅原優奈<sup>1</sup>・鈴木雅憲<sup>2</sup>・秋本正博<sup>3</sup> (1. 帯畜大, 2. カネコ種苗, 3. 帯畜大)

37. 帯広市で栽培したペレニアルライグラスの低温馴化様式

梶田さくら<sup>1</sup>・寺戸貴裕<sup>2</sup>・秋本正博<sup>3</sup> (1. 帯畜大, 2. 家畜改良セ, 3. 帯畜大)

38. 熱画像を利用した水稲多収系統選抜の可能性—シク形成および登熟期の子実充填能力との関係—

堀越瑞貴<sup>1</sup>・太田裕亮<sup>1</sup>・中島大賢<sup>1</sup>・市川伸次<sup>2</sup>・角田貴敬<sup>2</sup>・柏木純一<sup>1</sup> (1. 北大院農, 2. 北大 FSC)

39. 群落特性に着目した北海道育成水稲品種における多収要因解析

太田裕亮<sup>1</sup>・堀越瑞貴<sup>1</sup>・柏木純一<sup>1</sup>・中島大賢<sup>1</sup>・市川伸次<sup>2</sup>・角田貴敬<sup>2</sup> (1. 北大院農, 2. 北大 FSC)

40. 北海道のイネ品種間の交雑組合せで見出された雑種崩壊の原因遺伝子 *thb2* のマッピングと由来  
若林妙恵・粟崎奈央・加藤清明 (帯畜大)

41. 次世代シーケンスデータを用いる新規ミトコンドリアゲノムバリエーションコーラーの開発

窪田恵之<sup>1</sup>・北崎一義<sup>2</sup>・久保友彦<sup>2</sup> (1. 北大院農, 2. 北大院農)

42. テンサイ Owen 型細胞質雄性不稔の発現はいつスタートするのか?

足達春樹・伊藤栞奈・桂直之・荒河匠・久保友彦・北崎一義 (北大院農)

43. テンサイにおける新規稔性回復遺伝子の同定と機能解析

赤澤亨歩<sup>1</sup>・柏倉淳<sup>1</sup>・松平洋明<sup>2</sup>・北崎一義<sup>1</sup>・久保友彦<sup>1</sup> (1. 北大院農, 2. 北農研)

44. テンサイ Owen 型 CMS における花粉稔性回復は温度感受性である

織田琴子<sup>1</sup>・柏倉淳<sup>1</sup>・松井克憲<sup>1</sup>・黒田洋輔<sup>2</sup>・松平洋明<sup>2</sup>・北崎一義<sup>1</sup>・久保友彦<sup>1</sup> (1. 北大院農, 2. 北農研)

45. 多数のテンサイ育成系統を供試した褐斑病抵抗性評価の試み

成廣翼・松平洋明・ンジャネ スティーブン・ンジェヒャ・伊藤淳史・黒田洋輔 (北農研)

46. テンサイ品種の収量比較における空撮画像の活用に関する考察

松平洋明・成廣翼・黒田洋輔 (北農研)



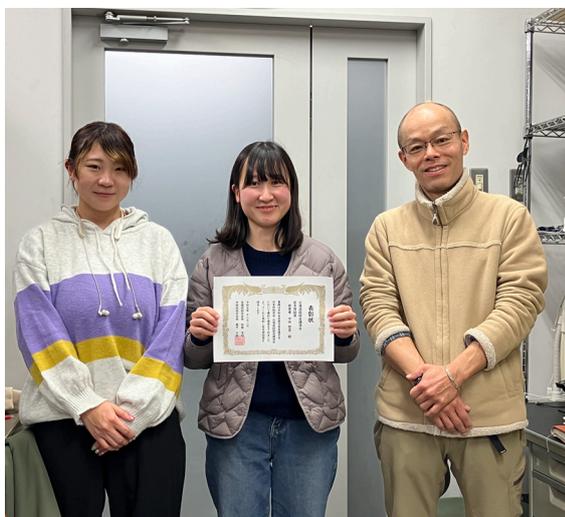
若手奨励賞の鳥居志帆氏



奨励賞の梶田さくら氏



奨励賞の斉藤涼介氏



奨励賞の中田智夏氏



優秀発表賞の堀越瑞貴氏



優秀発表賞の田邊琉哉氏

## 〈東北地区〉

以下の3つの研究集会在開催された。

### 1. 第3回アブラナ科ゲノム育種研究会の共催開催

2023年12月2日(土)に朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)で、第3回アブラナ科ゲノム育種研究会(主催はアブラナ科ゲノム育種研究会)が開催され、東北育種研究集会在共催で参加した。開催の詳細は以下の通りである。

日時: 令和5年12月2日(土) 10:00 ~ 12:00

場所: 朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)

講演

1. 「育種は続くよどこまでも ハクサイ晩抽性育種の40年」

由比進氏(岩手大学)

2. 「アブラナ科植物の農業形質 QTL 解析とマーカー利用選抜」

岡崎桂一氏(新潟大学)

参加人数: 68名(オンライン参加者を含む)

### 2. 第18回東北育種研究集会在

2023年12月2日(土)に第18回東北育種研究集会在(運営委員長: 岡崎桂一氏)が朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)で開催され。今回は前回に引き続き、関東地区2(栃木, 群馬, 埼玉, 千葉)にも参集範囲を広げて開催したことに加え、同日午前にも同会場で開催された第3回アブラナ科ゲノム育種研究会(主催: アブラナ科ゲノム育種研究会)からもご参加いただいた結果、大学, 公設試験場, 民間企業, 行政機関と幅広い分野から計65名の方々にご参加いただいた。

3部構成として集会在を開催し、第1部では特別講演1として、山崎将紀氏(新潟大学農学部)から「日本水稲を用いた遺伝育種学的研究」と題してご講演いただいた。第2部では岡田萌子氏(新潟大学農学部)から「ムギ類近縁野生種の育種利用に向けて」と題してご講演をいただいた。第3部では研究成果のポスター発表を行った。

ポスター発表では25題の講演があり、非常に活発な質疑応答があった。優秀ポスター賞へのエントリー21題のうち、細野浩平さん(P07, 山形大学大学院農学研究科)、池田陽さん(P16, 秋田県立大学生物資源科学部)、本保風夏さん(P22, 東北大学大学院農学研究科)の3名が優秀ポスター賞として選ばれ、表彰された。

開催の詳細は以下の通りです。

1. 日時: 令和5年12月2日(土) 13:15 ~ 17:10

2. 会場: 朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター中会議室301

3. プログラム

1) 開会挨拶 岡崎桂一氏(新潟大学農学部)

2) 特別講演1

山崎将紀氏 (新潟大学農学部)

「日本水稻を用いた遺伝育種学的研究」

3) 特別講演 2

岡田萌子氏 (新潟大学農学部)

「ムギ類近縁野生種の育種利用に向けて」

4) 研究成果ポスター発表

5) 閉会

ポスター発表の演題リストは以下の通りである。(☆: 優秀ポスター賞エントリー発表者 ○: 発表者)

P01. Transposable element activation in soybean *ddm1* mutant

☆Ahsen Gers, Moeko Okada, Keiichi Okazaki, Eigo Fukai (Niigata University, Graduate School of Science and Technology)

P02. Co-identification of candidate regions associated with ovule number through QTL mapping and GWAS in *Raphanus sativus* L.

☆Ji J, X.Y. Zhu, M. Yamamoto, H. Kitashiba (Grad. Sch. of Agric. Sci., Univ. of Tohoku)

P03. ダダチャマメの良食味に関わる QTL とその責任遺伝子の推定

○塩谷直弘<sup>1</sup>, 横山紗季<sup>2</sup>, 小木曾映里<sup>3</sup>, 宮城敦子<sup>1</sup>, 川合真紀<sup>4</sup>, 星野友紀<sup>1,2</sup> (1. 山形大院・農, 2. 山形大・農・食料生命環境, 3. 国立科学博物館・分生多研セ, 4. 埼玉大院・理工)

P04. 東北地方日本海側向けコムギの育成に向けたコムギ既存品種及び育成系統の特性評価

☆奥村咲<sup>1</sup>, 小林由奈<sup>1</sup>, 遠藤直輝<sup>2</sup>, 伊藤温<sup>1</sup>, 奥谷優梨香<sup>1</sup>, 中丸観子<sup>3</sup>, 伊藤裕之<sup>3</sup>, 池永幸子<sup>3</sup>, 寺沢洋平<sup>4</sup>, 松中仁<sup>4</sup>, 中坪あゆみ<sup>1</sup>, 笹沼恒男<sup>1,2</sup> (1. 山形大・農, 2. 山形大・院農, 3. 農研機構・東北農研セ, 4. 農研機構・北農研セ)

P05. *OsMORF2* への *nDart* 挿入変異がオルガネラゲノムの RNA 編集と転写に与える効果について

☆横井望, 石川隆二 (弘大・農生)

P06. オワリハタモチより見出された穂発芽耐性遺伝子座 *qSdr9.1* および *qSdr9.2a* の責任遺伝子の探索

☆佐藤紗知<sup>1</sup>, 杉本和彦<sup>2</sup>, 星野友紀<sup>1</sup> (1. 山形大院・農, 2. 農研機構・作物研)

P07. 形質調査と葉緑体 *trnF* 領域の多型解析に基づくベニバナ遺伝資源の遺伝的分化の解明

☆細野浩平<sup>1</sup>, 木村菓子<sup>2</sup>, 鈴木花<sup>2</sup>, 笹沼恒男<sup>1,2</sup> (1. 山形大・院農, 2. 山形大・農)

P08. 稲わら糖化性の品種間差を決める遺伝子候補の過剰発現による絞り込み

Screening of a gene that determines saccharification yields from rice straws by overexpression of the candidates

☆山口万優子, 小野彩花, 伊藤幸博 (東北大・農)

P09. 日本のネットメロンにおける全可溶性固形物含量

に関わる遺伝子座の推定

☆山中麻友香<sup>1</sup>, 佐藤奈乃佳<sup>1</sup>, 嶋田玄太郎<sup>2,3</sup>, 大熊眞歩<sup>4</sup>, 武藤千秋<sup>5</sup>, 内藤健<sup>5</sup>, 石川隆二<sup>1</sup>, 友岡憲彦<sup>5</sup>, 西田英隆<sup>4</sup>, 加藤鎌司<sup>4</sup>, 田中克典<sup>1</sup> (1. 弘前大・農生, 2. ミュンヘン工科大, 3. 筑波大・生命環境, 4. 岡山大・院環境生命, 5. 農研機構・資源研)

P10. 日本の在来メロンにおける果実形質関連遺伝子の推定を目的とした表現型変異の解析

☆中嶋くるみ<sup>1</sup>, 石川隆二<sup>1</sup>, 西田英隆<sup>2</sup>, 加藤鎌司<sup>2</sup>, 田中克典<sup>1</sup> (1. 弘前大・農生, 2. 岡山大・院環境生命)

P11. ミヤコグサ交雑 F<sub>1</sub> 世代におけるレトロトランスポゾン活性化イベント検出の試み

☆山廻禮子, 岡田萌子, 深井英吾, 岡崎桂一 (新潟大・院自然科学)

P12. セイヨウナタネで見られた耐塩性と ABA による発芽遅延の関連性に関わる遺伝要因の探索

☆朱星宇, 田菱楠, 山本雅也, 北柴大泰 (東北大学大学院農学研究科)

P13. 突然変異体を用いたイネ穂発芽耐性遺伝子座 *qSdr6b* の責任遺伝子の逆遺伝学的証明

☆西村麟太郎<sup>1</sup>, 佐野舜一<sup>1</sup>, 杉本和彦<sup>2</sup>, 星野友紀<sup>1</sup> (1. 山形大院・農, 2. 農研機構・作物研)

P14. 2023 年の高温により生じた胴割れ被害の品種間差と耐性品種育成の経過と保有染色体領域

○石川隆二 (弘大農生)

P15. ダイズにおける *ddm1* 変異の茎疫病抵抗性遺伝子座内の染色体組換えへの影響評価

☆大橋陸人, 岡田萌子, 岡崎桂一, 深井英吾 (新潟大院・自然科学)

P16. 秋田在来イネ品種「短穂」の玄米形質に関わる GW5 の機能解析

☆池田陽<sup>1</sup>, 千葉航<sup>1</sup>, 渡辺明夫<sup>1</sup>, 櫻井健二<sup>1</sup>, 上田健治<sup>1</sup>, 中島涼太<sup>2</sup>, 赤木宏守<sup>1</sup> (1. 秋田県立大学生物資源科学部, 2. 秋田県農業試験場作物部)

P17. フツソバにおける異形花型自家不和合性遺伝子座の解析

☆中野絢菜<sup>1</sup>, 根本花奈美<sup>1</sup>, 石川詩絵里<sup>1</sup>, 秋山彩香<sup>1</sup>, 佐藤真吾<sup>1</sup>, 田巻茜<sup>1</sup>, 加藤由夏<sup>1</sup>, 安井康夫<sup>2</sup>, 大田竜也<sup>3</sup>, 相井城太郎<sup>1</sup> (1. 新潟薬科大学・応生科, 2. 京都大学・院農, 3. 総研大・統合進化科学研究センター)

P18. ハクサイ根こぶ病抵抗性遺伝子座 *CRk* の候補遺伝子の解析

☆島田和希, 畠山勝徳 (岩手大学・農)

P19. イネ培養細胞を用いたシュルツェマダニ由来の抗菌ペプチド persulcatusin の生産 Production of an antimicrobial peptide persulcatusin of the taiga tick in rice cultured cells

藤田岳, 下田蒼, 米山裕, ○伊藤幸博 (東北大・農)

P20. STH クロマトグラフィックアッセイ法による S ハプロタイプ検出の試行

○北柴大泰, TIAN Ainan (東北大学大学院農学研究科)

## 特別公演の様子



特別講演 1 山崎氏の講演



特別講演 2 岡田氏の講演

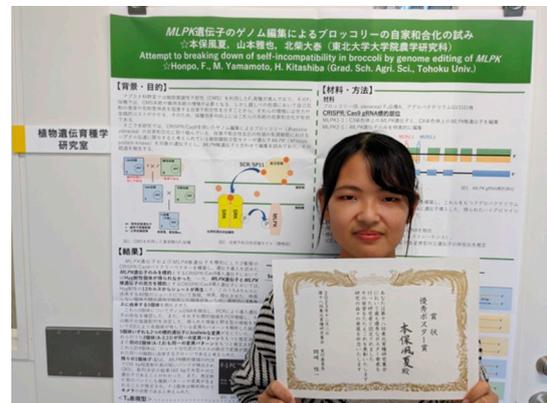
## ポスター賞受賞者



細野浩平氏



池田陽氏



本保風夏氏

- P21. イネ萎縮小胚突然変異体の原因遺伝子の同定  
 ☆本間大介, 岡田萌子, 岡崎桂一, 深井英吾 (新潟大院・自然科学)
- P22. *MLPK* 遺伝子のゲノム編集によるブロッコリーの自家和合化の試み  
 ☆本保風夏, 山本雅也, 北柴大泰 (東北大学大学院農学研究科)
- P23. オーストラリア野生イネの第3染色体 30.04-30.69Mb に座乗する新規小穂サイズを制御する遺伝子の解析  
 ☆満壽利毅<sup>1</sup>, 一谷勝之<sup>2</sup>, Robert Henry<sup>3</sup>, 石川隆二<sup>1</sup>  
 (1. 弘大・農生, 2. 鹿大・農, 3. Univ. of Queensland, QAFFI)
- P24. 東北・関東地方のニコウキスゲの形態形質・DNA多型に基づく遺伝的分化  
 ☆齋藤乃亜<sup>1</sup>, 玉川加奈<sup>2</sup>, 佐藤結紀<sup>1</sup>, 長船裕紀<sup>3</sup>, 菅原翼<sup>3</sup>, 岸本誠司<sup>3,4</sup>, 笹沼恒男<sup>1,2</sup> (1. 山形大・農, 2. 山形大・院農, 3. 鳥海山飛鳥ジオパーク推進協議会, 4. 東北工業大・ライフデザイン)

- P25. ダイズの自己花粉伸長の系統間差異  
 ☆芳賀大地, 岡田萌子, 岡崎桂一, 深井英吾 (新潟大・農)

## 3. 第24回リンドウ研究会の開催

2023年8月25日に第25回リンドウ研究会が以下の通り、岩手育種談話会、岩手県園芸育種研究集まりりんど部会、岩手生物学研究センターの共同で開催されました。

日時：令和5年8月25日（金）

場所：岩手大学農学部総合教育研究棟（生命系）2階ぼらんホール

講演

1. 「軽劣化と増収を両立するりんどうの新しい栽培方法」

小田島雅氏（岩手県農業研究センター園芸技術研究部主査専門研究員）

2. 「りんどうのバイテク育種研究について」

西原昌宏氏（公益財団法人岩手生物工学研究センター園芸資源研究部研究部長）

参加人数：45名

（世話人：岩手大学農学部 代表 畠山勝徳）

### 〈北陸地区〉

令和5年度北陸作物・育種談話会が2023年10月20日（金曜日）、新潟県上越市で開催され、一般講演20題の発表が行われた。発表課題は以下の通りである（\*は発表者）。

（1）一般講演

1. 高温登熟性品種に対する高温登熟性遺伝子 *Apq1* の導入効果

村田和優・北崎颯汰\*・長岡令・山口琢也・尾崎秀宣・小島洋一郎（富山県農林水産総合技術センター）

2. けい酸含量と水稻種子の外観品質の関係

山口琢也\*<sup>1</sup>・藤井みずほ<sup>1</sup>・齋藤義宏<sup>1</sup>・中田均<sup>2</sup>（1. 富山県砺波農林振興センター，2. 富山県農林水産総合技術センター）

3. 品種登録における「重要な形質」である止め葉長および止め葉幅について

小林麻子・中岡史裕・渡辺脩斗・茶谷弦輝（福井県農業試験場）

4. 保管後の水稻種子の含水率または休眠打破の有無と発芽率の関係

中岡史裕・小林麻子・渡辺脩斗・茶谷弦輝（福井県農業試験場）

5. SCU配合Jコート肥料が「てんたかく81」の収量・品質に及ぼす影響

森川真紀子（富山県農林水産総合技術センター）

6. 基肥一括施肥栽培における幼穂形成期の窒素追肥の効果

細川幸一（福井県農業試験場）

7. 籾殻燻炭の補助暗渠疎水材としての活用と炭素貯留および水稻生育と温室効果ガス放出量への影響

古川勇一郎・平原勇樹・秋山柚紗・佐藤光・服部誠・佐藤徹・大峽広智（新潟農総研作物研究センター）

8. 根出し種子を用いた各種散播栽培様式の適用性の検討

板谷恭兵（富山県農林水産総合技術センター）

9. 石川県におけるイネ初冬直播き栽培の適応性検討

有手友嗣\*・田中澄恵（石川県農林総合研究センター）

10. 長野県における「コシヒカリ」における白未熟粒発生リスクがある出穂期

上原泰（長野県農業試験場）

11. 越冬後追肥が六条オオムギ「北陸皮72号」の収量・生育・品質および粒重増加に及ぼす影響

岡村夏海\*・島崎由美・長嶺敬（農研機構・中日本農業研究センター・上越研究拠点）

12. 醸造用六条オオムギ「ゆきはな六条」の早期実肥処理が収量および品質に及ぼす影響

島崎由美・岡村夏海（農研機構中日本農業研究センター）

13. 鶏糞利用による大麦の施肥体系の確立

山下健樹（石川県農林総合研究センター）

14. 小麦「東山53号（ハナチカラ）」のタンパク質含有率安定確保に向けた開花期追肥量の検討

丸山翔太\*<sup>1</sup>・諸人誌<sup>1</sup>・北原綾華<sup>2</sup>（1. 長野県農業試験場，2. 長野農業農村支援センター）

15. 「里のほほえみ」の裂皮を減少させる条件

河野雄飛（中日本農業研究センター・水田利用研究領域）

16. ダイズ黒根腐病抵抗性を強化した系統の新潟県での抵抗性評価

藤田与一\*<sup>1</sup>・菱沼亜衣<sup>2</sup>・南條洋平<sup>3</sup>（1. 新潟農総研作物研究センター，2. 農研機構東北農業研究センター，3. 農研機構作物研究部門）

17. 大豆栽培における収量減少要因の解析

野村駿介（石川県農林総合研究センター）

18. スマートフォンと連携した温湿度計による水稻登熟後期の簡易な飽差測定法

服部誠<sup>1</sup>・今井康貴<sup>2</sup>・古川勇一郎<sup>1</sup>・佐藤徹<sup>1</sup>・佐藤光<sup>1</sup>・南雲芳文<sup>1</sup>（1. 新潟農総研作物研究センター，2. 新潟県長岡地域振興局農林振興部）

19. ドローンの空撮画像を用いた水稻生育量の推定

藤田純代（福井県農業試験場）

20. ファイバースノウの越冬後幼穂長からの出穂予測

山口泰弘（福井県農業試験場）

（2）会報の発行

2024年3月26日，北陸作物・育種研究第59号を刊行。

### 〈中部地区〉

第30回日本育種学会中部地区談話会が，2023年12月17日（土曜日）に名古屋大学を開催校として4年ぶりに対面にて開催された。特別講演1題および一般講演28題の発表が行われ，中部地区5県（愛知・岐阜・三重・静岡・長野）の大学・高専・研究機関の研究者・学生，計68名の参加があり，活発な質疑・意見交換がなされた。一般講演については，参加者全員の投票により6題の発表に対して優秀発表賞が授与され，互いの成果を称え合いつつ盛況の内に閉会した。

発表課題は、以下の通りである。

#### 特別講演

イネの多収化と持続的生産に向けて ～炭素・窒素動態から～

近藤始彦（名古屋大学大学院生命農学研究科教授）

#### 一般講演

P01-A 根の通過細胞数と葉の気孔コンダクタンスの関連の解析

☆角クルミ<sup>1</sup>・山中碩人<sup>2</sup>・森下紘光<sup>1</sup>・三並翔哉<sup>3</sup>・石崎蒼太<sup>4</sup>・谷吉和貴<sup>5</sup>・安達俊輔<sup>6</sup>・田中佑<sup>2</sup>・山内卓樹<sup>7</sup>  
(1. 名古屋大学・大学院生命農学研究科, 2. 岡山大学・大学院環境生命自然科学研究科, 3. 名古屋大学・農学部, 4. 岡山大学・農学部, 5. 京都大学・大学院農学研究科, 6. 東京農工大学・農学研究科, 7. 名古屋大学・生物機能開発利用研究センター)

P02-B リン酸欠乏条件下での根端メリステム領域の制御メカニズムの解析

☆森下紘光<sup>1</sup>・角クルミ<sup>1</sup>・杉田亮平<sup>2</sup>・鈴木孝征<sup>3</sup>・米山香織<sup>4</sup>・山内卓樹<sup>5</sup>  
(1. 名古屋大学・大学院生命農学研究科, 2. 名古屋大学・アイソトープ総合センター, 3. 中部大学・大学院応用生物学研究科, 4. 埼玉大学・研究機構, 5. 名古屋大学・生物機能開発利用研究センター)

P03-C イネの茎頂メリステムにおけるホルマウント免疫染色系の開発

☆森下友梨香<sup>1</sup>・高田峻輔<sup>2</sup>・吉田綾<sup>2</sup>・肥後あすか<sup>2</sup>・辻寛之<sup>2,3</sup>  
(1. 名古屋大・農学, 2. 横浜市大・木原生物学研究所, 3. 名古屋大・生物機能開発利用研究センター)

P04-A イネの不定根における低酸素に応答した皮層細胞層数の可塑性の解析

☆三並翔哉<sup>1</sup>・津田勝利<sup>2</sup>・山内卓樹<sup>3</sup>  
(1. 名古屋大学・農学部, 2. 国立遺伝学研究所, 3. 名古屋大学・生物機能開発利用研究センター)

P05-B 低投入型農業に貢献するイネの重要遺伝子の探索  
☆伊藤ひなた・長谷川昂平・高橋宏和・中園幹生・村瀬潤・西内俊策・天野真宏（名古屋大学生命農学研究科）

P06-C *Zea* 属植物の *ROL barrier formation1* 遺伝子の 5'UTR 上に挿入されたトランスポゾンの解析

☆宍戸恵<sup>1</sup>・高橋宏和<sup>1</sup>・縣步美<sup>1</sup>・大森史恵<sup>2</sup>・間野吉郎<sup>2</sup>・中園幹生<sup>1</sup>  
(1. 名大院・生命農学研究科, 2. 農研機構・畜産研究部門)

P07-A 二次通気組織におけるトリテルペノイドの分子種の同定および機能解明

☆實井真愛<sup>1</sup>・安保知里<sup>1</sup>・Jutapat Romsuk<sup>2</sup>・大井崇生<sup>1</sup>・Yukari Tomisaki<sup>1</sup>・村中俊哉<sup>2</sup>・中園幹生<sup>1</sup>・關光<sup>2</sup>・高橋宏和<sup>1</sup>  
(1. 名大院・生命農学研究科, 2. 大阪大院・工学研究科)

P08-B *Zea* 属植物における ROL バリア形成制御遺伝子の機能解析

○藁科愛実<sup>1</sup>・伊藤拓摩<sup>1</sup>・高橋宏和<sup>1</sup>・森仁志<sup>1</sup>・野元美佳<sup>2</sup>・多田安臣<sup>2</sup>・犬飼義明<sup>1</sup>・高橋秀和<sup>3</sup>・大森史恵<sup>4</sup>・間野吉郎<sup>4</sup>・中園幹生<sup>1</sup>  
(1. 名大院・生命農学研究科, 2. 名大・遺伝子実験施設, 3. 福島大・農学群食農学類, 4. 農研機構・畜産研究部門)

P09-C Identification of QTLs for internode elongation in African wild rice *Oryza longistaminata* (アフリカ野生イネ *Oryza longistaminata* における節間伸長関連 QTL の探索)  
☆Quynh Ha<sup>1</sup>, Yoshiyuki Yamagata<sup>2</sup>, Hideshi Yasui<sup>2</sup>, Atsushi Yoshimura<sup>2</sup>, Keisuke Nagai<sup>3</sup>, Motoyuki Ashikari<sup>3</sup>  
(1. Graduate School of Bioagricultural Sciences, Nagoya University, 2. Faculty of Agriculture, Kyushu University, 3. Bioscience and Biotechnology Center)

P10-A GA を用いたスクリーニングによる新規イネ節間伸長制御因子の探索

☆水嶋澤<sup>1</sup>・山形悦透<sup>2</sup>・安井秀<sup>2</sup>・吉村淳<sup>2</sup>・久保貴彦<sup>2</sup>・永井啓祐<sup>3</sup>・芦荻基行<sup>3</sup>  
(1. 名古屋大学生命農学研究科, 2. 九州大学農学部, 3. 名古屋大学生物機能開発利用研究センター)

P11-B ワサビ (*Eutrema japonicum*) における辛味関連成分グルコシノレートの組織間差

○野澤里美・恒川麗奈・平海水緒・羽賀夏子・高島茂雄・山根京子（岐阜大学応用生物科学部植物遺伝育種学研究室）

P12-C 温暖化対策に有効な晩生・頑健遺伝子を組み合わせたコシヒカリ

☆中山公平・富田因則（静岡大学グリーン科学技術研究所・植物ゲノミックス研究コア）

P13-A *sd1* と *d65* の二重短程に *GW2* または *e1* を組み合わせたコシヒカリ

☆藤田駆・富田因則（静岡大学グリーン科学技術研究所・植物ゲノミックス研究コア）

P14-B オオムギの葍排出および花器官形態に及ぼす *cly1.b4* 変異遺伝子の効果

☆木子絢葉・Nanape Agetha・掛田克行（三重大院・生物資源）

P15-C ボンバードメント法でゲノム編集用ベクターを打ち込む際のチャ不定胚の二次胚誘導のタイミング

☆稲葉佑弥<sup>1</sup>・青島千恵理<sup>1</sup>・平田洲五<sup>1</sup>・山下寛人<sup>2</sup>・一家崇志<sup>2</sup>・古川一実<sup>3</sup>  
(1. 沼津高専専攻科, 2. 静岡大学農学部, 3. 沼津高専物質工学科)

P16-A チャの不定胚培養における海苔寒天・フェアリー化合物・ろ紙の有効性

☆黒崎実侑<sup>1</sup>・流石啓司<sup>2</sup>・河岸洋和<sup>3</sup>・一家崇志<sup>3</sup>・古川一実<sup>1</sup>  
(1. 沼津高専物質工学科, 2. (株) 鈴与総合研究所, 3. 静岡大学農学部)

P17-B チャ（茶樹）の不定胚増殖や分化誘導においてスクロースと同等の効果をもたらすトレハロース添加培養

☆大角寿桜・黒崎実侑・古川一実（沼津高専物質工学

科)

P18-C イネにおける総根長増大をもたらす根系形質の組合せとその制御機構

☆金生真綾<sup>1</sup>・Yihao Dong<sup>1</sup>・Patrick Louie G. Lipio<sup>1</sup>・犬飼義明<sup>2</sup> (1. 名大・院生命農学, 2. 名大・農学国際教育研究センター)

P19-A 半矮性イネ品種「IR64」に由来する出穂後の節間伸長を正に制御する遺伝的要因の探索

☆伊藤蓮<sup>1</sup>・千種瑞生<sup>2</sup>・藤谷里玖<sup>2</sup>・黒川裕介<sup>1,2</sup>・平野達也<sup>1,2</sup> (1. 名城大学大学院農学研究科, 2. 名城大学農学部)

P20-B トウガラシ (*Capsicum annuum*) における楕円フーリエ解析を用いた果実形状の定量方法の検討

☆熊埜御堂由依<sup>1</sup>・根本和洋<sup>2</sup>・松島憲一<sup>2</sup>・近藤文哉<sup>3,4</sup> (1. 信州大学大学院総合理工学研究科, 2. 信州大学学術研究院農学系, 3. 信州大学大学院総合医理工学研究科, 4. 日本学術振興会特別研究員)

P21-C *Brassica rapa* L. における新規Sハプロタイプ進化的中間体の探索

☆村田麗奈<sup>1</sup>・大岡彩夏<sup>1</sup>・斉藤佳南子<sup>1,3</sup>・山本曜<sup>1,4</sup>・松島憲一<sup>2</sup>・根本和洋<sup>2</sup> (1. 信州大学大学院総合理工学研究科, 2. 信州大学学術研究院農学系, 3. 雪印種苗株式会社, 4. グリーン近江農業協同組合)

P22-A 長野県在来カブ品種「保平蕪」における遺伝的多様性の評価

☆小原涼太郎<sup>1</sup>・松島憲一<sup>2</sup>・根本和洋<sup>2</sup> (1. 信州大学大学院総合理工学研究科, 2. 信州大学学術研究院農学系)

P23-B チャ遺伝資源集団における分光反射情報を用いた非破壊成分予測手法の検討

☆齊藤佑介<sup>1</sup>・石黒雄大<sup>1</sup>・吉田圭太<sup>2</sup>・土屋祐太<sup>1</sup>・川木純平<sup>3</sup>・藺部礼<sup>2,4</sup>・山下寛人<sup>2,4</sup>・一家崇志<sup>2,4,5</sup> (1. 静大・院, 2. 静大・農, 3. 静岡県・茶研, 4. 静大・ティーサイエンス研, 5. 静大・グリーン研)

P24-C 茶特化代謝の自然変異に着目した全ゲノムリシーケンス解析

☆舟川奈那<sup>1</sup>・山下寛人<sup>2,3</sup>・石黒雄大<sup>1</sup>・川木純平<sup>4</sup>・一

家崇志<sup>2,3,5</sup> (1. 静大・院, 2. 静大・農, 3. 静大・ティーサイエンス研, 4. 静岡県・茶研, 5. 静大・グリーン研)

P25-A オオムギ若葉のイオノームに関するゲノムワイド関連解析

☆清田明那<sup>1</sup>・丹羽祐麻<sup>2</sup>・中野友貴<sup>3</sup>・一家崇志<sup>2</sup>・山下寛人<sup>2</sup> (1. 静大・院, 2. 静大・農, 3. 農研機構・中農研)

P26-B 葯形質に着目したイネ耐冷性の遺伝解析

☆菊地由夏<sup>1</sup>・松山恵美子<sup>2</sup>・島川昂大<sup>2</sup>・Abebaw D. Mabreja<sup>2</sup>・西内俊策<sup>2</sup>・土井一行<sup>2</sup> (1. 名大農, 2. 名大院生命農学)

P27-C 脱炭素社会構築を目指したジョンソングラスの遺伝資源調査

☆山田千祥紀<sup>1</sup>・橋本舜平<sup>2</sup>・岡田聡史<sup>3</sup>・中村(荒木)聡子<sup>3</sup>・篠原(大前)梢<sup>3</sup>・春日重光<sup>4</sup>・佐塚隆志<sup>3</sup> (1. 名大・院生命農学, 2. 東大院・農学生命科学, 3. 名大・生物セ, 4. 信大・学術研究院)

P28-A イネ側根原基における可塑的な発生運命変更機構の解析

☆櫛田聖也<sup>1</sup>・赤星良輔<sup>1</sup>・井成(池田)真由子<sup>2</sup>・犬飼義明<sup>3</sup> (1. 名大・院生命農学, 2. 東海学園大・健康栄養, 3. 名大・農学国際教育研究センター)

### 〈近畿地区〉

近畿地区は、近畿作物育種研究会として活動している。近畿作物育種研究会は、近畿地方2府4県の農業試験場関係研究者および大学の作物および育種系研究室の教員と学生で構成されている研究会で、作物研究(Journal of Crop Research)という名前の機関雑誌も発刊している(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jcr/-char/ja>)。研究会では、春(5-6月)と秋(10-12月)の年2回の例会を開催しており、そのうち2年に1回の頻度で、秋の例会時に公開シンポジウムを企画実施している。また、不定期で夏に現地検討会を開催することがある。

2023年度は下記の通り、春の例会(第194回例会)、



優秀発表賞受賞者と指導された先生方(左), および第30回中部地区談話会の参加者(右)

前列左から、伊藤ひなた氏(名古屋大学), 山田千祥紀氏(名古屋大学), 伊藤蓮氏(名城大学), 稲葉佑弥氏(沼津高専), 熊埜御堂由依氏(信州大学), 小原涼太郎氏(信州大学)

現地検討会（第12回）、公開シンポジウム（第195回例会）を実施した。

#### 【春の例会，第194回例会】

第194回例会は2023年6月24日に滋賀県立大学で開催された。下記の通り一般講演9題が口頭発表され、審査により優秀発表賞は山本晴志郎（講演③）に授与された。

①大崎梨央奈<sup>1</sup>・水本晃那<sup>1,2</sup>・笹山大輔<sup>1</sup>・畠中知子<sup>1</sup>・深山浩<sup>1</sup>・東哲司<sup>1</sup>（1. 神戸大学大学院農学研究科，2. 農研機構・中日本農業研究センター）麦踏みはエチレンを発生させ幼穂分化関連遺伝子VRN1の発現を抑制する

② Sathya Lim<sup>1</sup>・Hiroki Saito<sup>2</sup>・Chhoun Orn<sup>3</sup>・Ryo Ishikawa<sup>1</sup>・Yutaka Sato<sup>4</sup>・Takashige Ishii<sup>1</sup>（1. Graduate School of Agricultural Science, Kobe University, 2. Tropical Agriculture Research Front, Japan International Research Center of Agricultural Science, 3. Cambodian Agricultural Research and Development Institute, 4. National Institute of Genetics）Evaluation of agricultural characteristics among local rice varieties collected more than half-century ago in Indochinese countries

③山本晴志郎<sup>1</sup>・岩橋優<sup>1</sup>・西村和紗<sup>2</sup>・元木航<sup>2</sup>・長坂京香<sup>1</sup>・中野龍平<sup>1</sup>・井上博茂<sup>1</sup>・中崎鉄也<sup>1</sup>（1. 京都大学大学院農学研究科，2. 岡山大学大学院環境生命自然科学研究科）西南暖地の晩期移植栽培におけるイネの収量性に及ぼす感光性遺伝子Ghd7およびHd1の効果

④岩橋優<sup>1</sup>・Shamitha Rao Yagi<sup>2</sup>・元木航<sup>3</sup>・落合久美子<sup>1</sup>・小林優<sup>1</sup>・西村和紗<sup>3</sup>・長坂京香<sup>1</sup>・井上博茂<sup>1</sup>・中野龍平<sup>1</sup>・沼田圭司<sup>2</sup>・中崎鉄也<sup>1</sup>（1. 京都大学大学院農学研究科，2. 京都大学大学院工学研究科，3. 岡山大学大学院環境生命自然科学研究科）紅色光合成細菌（*Rhodovulum sulfidophilum*）由来有機質肥料の肥効検証

⑤小梶裕之<sup>1,2</sup>・西村和紗<sup>1,3</sup>・齊藤大樹<sup>4</sup>・清水顕史<sup>5</sup>・永野惇<sup>6,7</sup>・岩橋優<sup>1</sup>・井上博茂<sup>1</sup>・中野龍平<sup>1</sup>・中川博視<sup>8</sup>・中崎鉄也<sup>1</sup>（1. 京都大学大学院農学研究科，2. グランドグリーン株式会社，3. 岡山大学大学院環境生命自然科学研究科，4. 国際農研，5. 滋賀県立大学環境科学部，6. 龍谷大学農学部，7. 慶應義塾大学先端生命科学研究科，8. 農研機構・農業情報研究センター）短日条件下の出穂に対する温度応答性に関するタカナリーコシヒカリ間の変異と関連遺伝子群

⑥谷坂隆俊（京都大学名誉教授）イネ出穂期遺伝子の記号整理（2）Ghd7座はE1座である

⑦田中朋之<sup>1</sup>・Qing Liu<sup>1,2</sup>・Olusegun Idowu<sup>1</sup>（1. 京都大学大学院農学研究科，2. 湖南農業大学）イネ白未熟粒変異体flo11-2を用いた高温ストレスの高感度影響評価

⑧畠中知子・富田典希・村上廣明・福井花菜・笹山大輔・深山浩・東哲司（神戸大学大学院農学研究科）外生

WRI1 遺伝子発現は種子油の含有量と脂肪酸組成に影響を及ぼす

⑨谷坂隆俊（京都大学名誉教授）向こう10年の育種と育種学を考える～みどりの食料システム戦略の実現に向けて～

#### 【現地検討会】

第12回現地検討会は、2023年9月30日土曜日に、京都府立大附属農場と京都府生物資源研究センターの視察を内容として実施された。検討会の中で、以下の講演またはミニ講義を実施した。

①西島隆明（京都府立大学）『精華農場における育種研究—サトイモおよびトレンニアにおける育種の展開—』

②西村和紗（岡山大学）『通常経費で実現できるNGSを使った育種事業』

③蘆田（京都府農林センター）『京都ならではのフードテックによる食関連産業の振興を目指して—京都フードテック基本構想—』

#### 【公開シンポジウム，第195回例会】

第195回例会公開シンポジウムは、2023年12月9日に、大阪公立大学中百舌鳥キャンパスC1棟の学術交流会館多目的ホールで開催された。シンポジウムのテーマは『根と根圏からみる作物・育種の未来』で、講演内容は以下の通りである。

①山内卓樹（名古屋大学）『植物の成長と環境適応を支える根の解剖学的形質の包括的理解に向けて』

②西條雄介（奈良先端科学技術大学院大学）『水稻の成長・収量を増進する新規のイネ細菌共生系について』

③寺石政義（京都大学）『圃場環境下におけるダイズの根粒菌種親和性の遺伝子単離に向けて』

④杉山暁史（京都大学）『根から分泌されるトマチンの機能とトマト栽培への応用』

宇賀優作（農研機構）『気候変動に対応した作物開発のための根系フェノタイプング技術』

#### 〈九州・沖縄地区〉

佐賀大学農学部（佐賀市本庄キャンパス）にて令和5年12月14日（木）に第18回九州育種談話会を開催した。実行委員長は渡邊啓史先生（佐賀大学）であった。招待講演として3題、一般講演ポスター発表として24題の発表があり、活発な議論が行われました。オンサイト61名、オンライン2名の参加を賜りました。優秀発表賞、最優秀発表賞を一名ずつ投票にて学生および若手研究者より選定した。

講演会後は懇親会を行い、親睦を深めました。

#### 〈最優秀発表賞〉

P05. ☆尾上明日香（福岡県農林業総合試験場）オオム

ギにおける物理的な刺激による種子休眠の覚醒と植物ホルモンの発生消長

〈優秀発表賞〉

P12. ☆日高涼太<sup>1</sup>・橋口尚平<sup>2</sup>・増田優<sup>1,2</sup>・松田靖<sup>1,2</sup>  
(1. 東海大学大学院農学研究科, 2. 東海大学農学部農学科) *Zoysia* 属の遺伝資源に有効な InDel マーカーの設計と多様性の評価

発表演題は以下の通り.

〈招待講演〉

1. 後藤文之 (佐賀大学農学部) 「佐賀大学における植物工場研究の取組」
2. 藤田大輔 (佐賀大学農学部) 「佐賀県水稲品種「さがびより」へトビイロウンカ抵抗性付与による改良」
3. 池田繁成 (佐賀県果樹試験場) 「カンキツ品種「佐賀果試 35 号」(にじゅうまる) の育成と普及」

〈一般講演 (口頭発表)〉

P01. ☆Nguyen Hoang Nam<sup>1,2</sup>・Zheng Shao-Hui<sup>2</sup>・Takashige Ishii<sup>3</sup>・Daisuke Fujita<sup>2</sup> (1. Univ. Grad. Sch. Agr. Sci., Kagoshima Univ., 2 Grad. Sch. Agr., Saga Univ., 3 Grad. Sch. Agr. Sci., Kobe Univ.) Identification of QTLs for brown planthopper resistance from wild rice, *Oryza rufipogon*

P02. 松本泰明・○山崎聖司 (福岡教育大学教育学部) 交配によって得られた三性同株型キュウリの花と果実の解析

P03. 田中達也・○山崎聖司 (福岡教育大学教育学部) 交配によって得られた雄性不稔性を示す雄性両性同株型キュウリの解析

P04. ○甲斐浩臣 (福岡県農林業総合試験場) 「脱穀」というビンタで芽が覚めるオオムギの特性とその遺伝領域について

P05. ☆尾上明日香 (福岡県農林業総合試験場) オオムギにおける物理的な刺激による種子休眠の覚醒と植物ホルモンの発生消長

P06. ○福田真子・熊丸敏博 (九州大学大学院農学研究院) コメタンパク質グルテリンの細胞内輸送に関わる変異体の組織学的解析

P07. ○太田匠海<sup>1</sup>・Md. Abdur Rauf Sarkar<sup>1</sup>・山田梨姿<sup>1</sup>・穴井豊昭<sup>2</sup>・渡邊啓史<sup>1</sup> (1. 佐賀大農, 2. 九大院農) ダイズイソフラボンに関与する *GmlMat3* 遺伝子の作用機序の解明

P08. ○清水緋那乃・山田梨姿・渡邊啓史 (佐賀大農) フクユタカと晩生品種の分離集団における Long juvenile 遺伝子の探索

P09. ☆Saw Bo Day Shar<sup>1,2</sup>・Cuong Dinh Nguyen<sup>2</sup>・Shao-Hui Zheng<sup>2</sup>・Daisuke Fujita<sup>2</sup> (1. Univ. Grad. Sch. Agr. Sci., Kagoshima Univ., 2. Fac. Agr., Saga Univ.) Substitution mapping and characterization of brown planthopper resistance genes from traditional rice cultivar ‘Rathu Heenati’ (*Oryza sativa* L.)

P10. ☆吉田修也<sup>1</sup>・Ammar Elakhdar<sup>2</sup>・福田真子<sup>2</sup>・久保貴彦<sup>1,2</sup>・熊丸敏博<sup>1,2</sup> (1. 九州大学大学院生物資源環境科学府, 2. 九州大学大学院農学研究院) イネグルテリン前駆体の細胞内輸送に関わる *Glup1* 変異体の解析

P11. ☆Ammar Elakhdar<sup>1</sup>・Tran Hong Quan<sup>1</sup>・Tomokazu Ushijima<sup>2</sup>・Takahiko Kubo<sup>1</sup>・Toshihiro Kumamaru<sup>1</sup> (1. Institute of Genetic Resources, Faculty of Agriculture, Kyushu University, Fukuoka, Japan 2. Department of Agricultural Science and Technology, Faculty of Agriculture, Setsunan University, Osaka, Japan) Characterization of the *endosperm storage protein 3* mutant indicating the low level of the cysteine-rich prolamines in rice endosperm

P12. ☆日高涼太<sup>1</sup>・橋口尚平<sup>2</sup>・増田優<sup>1,2</sup>・松田靖<sup>1,2</sup>  
(1. 東海大学大学院農学研究科, 2. 東海大学農学部農学科) *Zoysia* 属の遺伝資源に有効な InDel マーカーの設計と多様性の評価

P13. ○山口修<sup>1</sup>・高田元気<sup>1</sup>・大久保佑璃<sup>1</sup>・坪根正雄<sup>2</sup>・宮崎真行<sup>2</sup>・緒方大輔<sup>3</sup>・奥野竜平<sup>4</sup>・石丸知道<sup>5</sup>・宮原典克<sup>6</sup>・荒木雅登<sup>7</sup>・岩渕哲也<sup>7</sup>・石塚明子<sup>1</sup>・熊本悠介<sup>7</sup> (1. 福岡県農林業総合試験場, 2. 福岡県農林水産部, 3. 福岡県北九州普及指導センター, 4. 元福岡県農林業総合試験場, 5. 福岡県飯塚普及指導センター, 6. 福岡県農林業総合試験場豊前分場, 7. 福岡県農林業総合試験場筑後分場) 水稲新品種「恵つくし」の諸特性

P14. ☆高田元気・山口修・大久保佑璃 (福岡県農林業総合試験場) マット苗とポット苗による水稲育成系統の評価法の検討

P15. ☆大久保佑璃<sup>1</sup>・山口修<sup>1</sup>・高田元気<sup>1</sup>・坪根正雄<sup>2</sup>



図 1. 優秀発表賞

(1. 福岡県農林業総合試験場, 2. 福岡県農林水産部) 水稻の登熟期高温処理が米飯の食味, 物性, デンプン特性に及ぼす影響

P16. ☆二宮孝修<sup>1</sup>・Nguyen Ti Le Ha<sup>2</sup>・鄭紹輝<sup>1</sup>・藤田大輔<sup>1</sup> (1. 佐大院・農, 2. 鹿大院・連農) イネの穂首維管束数に関する *qVBN11* の候補遺伝子推定

P17. ☆松嶋章<sup>1</sup>・安井秀<sup>1,2</sup>・山形悦透<sup>1,2</sup> (1. 九州大・院・生物資源環境科学府, 2. 九州大・院・農) *Oryza glumaepatula* を供与親とする戻し交雑組換え自殖系統に見出された穂数関連 QTL

P18. ☆藤井晶大<sup>1</sup>・安井秀<sup>1,2</sup>・山形悦透<sup>1,2</sup> (1. 九州大・院・生物資源環境科学府, 2. 九州大・院・農) *Oryza glaberrima* アフリカ栽培イネの育種的利用を促す高親和性系統の作出と出穂性の遺伝的基盤の解明

P19. ☆広中利貴<sup>1</sup>・安井秀<sup>1,2</sup>・山形悦透<sup>1,2</sup> (1. 九州大・院・生物資源環境科学府, 2. 九州大・院・農) *Oryza glaberrima* による連続戻し交雑集団を用いたツマグロヨコバイ抵抗 QTL の探索

P20. ☆前田幸暉浩<sup>1</sup>・高橋龍成<sup>1</sup>・柴田雪花<sup>1</sup>・田浦悟<sup>2</sup>・一谷勝之<sup>3</sup> (1. 鹿大・院農林水産学, 2. 鹿大・遺伝子実験施設, 3. 鹿大・農学) イネ突然変異白葉枯病抵抗性遺伝子がもたらす growth penalty を日印交雑後の戻し交雑世代の選抜によって克服する可能性

P21. ☆高橋龍成<sup>1</sup>・加藤神成流<sup>1</sup>・前田幸暉浩<sup>1</sup>・柴田雪花<sup>1</sup>・瀧山祐樹<sup>2</sup>・田浦悟<sup>3</sup>・一谷勝之<sup>4</sup> (1. 鹿大・院農林水産学, 2. 鹿児島県総て徳之島, 3. 鹿大・遺伝子実験施設, 4. 鹿大・農学) イネ白葉枯病新規抵抗性突然変異系統の白葉枯病複数菌株に対する抵抗性評価

P22. ☆柴田雪花<sup>1</sup>・豊元大希<sup>2</sup>・植村真郷<sup>3</sup>・田浦悟<sup>4</sup>・佐藤雅志<sup>5</sup>・Robert Henry<sup>6</sup>・石川隆二<sup>7</sup>・一谷勝之<sup>2,8</sup> (1. 鹿大・院農林水産学, 2. 鹿大・院連合農学, 3. 鹿大・院農学, 4. 鹿大・遺伝子実験施設, 5. 東北大・院農学, 6. Queensland 大・QAAFI, 7. 弘前大・農学生命科学, 8. 鹿大・農学) *O. sativa* と *O. meridionalis* との交雑後代で見出された受精後の種子発達に関わる遺伝子 *SDV2* の連鎖分析

P23. ○小倉岳彦・久保貴彦 (九州大学) イネ種子貯蔵物質のオーキシンによる制御メカニズム

P24. ○ Nguyen Thi Phuong Tho・Tetsuhiro Nakamura・Toshihiro Kumamaru・Takahiko Kubo (Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University) Characterization of new sugary gene involved in rice starch metabolism

## 日本育種学会会員異動 (2023.10.21~2024.4.20)

◇普通会員入会: 阿出川さとみ, 徐美蘭, 島田直人, 小柳香奈子, 木下雅文, 中嶋瞳 (北海道), 林真妃 (宮城県), 鈴木信裕, 大越三登志, 小郷裕子, 木澤恵子, 鈴木雄一, 中村春貴, 川岸万紀子, 岡野克紀, 中嶋健太, 藤井絵里帆 (茨城県), 戸澤譲 (埼玉県), 犬伏野咲, 菅原諒一 (千葉県), 兒玉晋洋 (東京都), 上西愛子 (神奈川県), 望月孝子, 浅野雄大, 勝岡弘幸, 清水徳朗 (静岡県), 木下俊則, 村尾瑞基 (愛知県), 本坊雄一郎 (奈良県), 高田元気, 白川篤史 (福岡県), 森則子, 本多優志 (佐賀県)

◇学生会員入会: 高西若菜, NGUYEN TRONG MINH NHAT, 中根明日香 (北海道), 中嶋くるみ, 山中麻友香 (青森県), 千田智也 (岩手県), 井上翔太, 小野皓亮, 吉村有 (千葉県), 牧野空, 石川智就, SHALABY EMAN HASSN, 山本真如, 木村奏, 河内匠, 浅井安都恰, 乾倫之右, 末藤巳旺, 柴真緒, 伊藤雄吾 (東京都), 櫻井楓也, 飯嶋佑太, 金子澪 (神奈川県), 本間大介 (新潟県), 高田茉莉奈, 沈致睿 (石川県), 卷田恵理奈 (福井県), GYE HEEJIN, 熊埜御堂由依, 小原涼太郎, 藤原恰生 (長野県), 稲葉佑弥 (静岡県), MOE SANDAR, 三並翔哉, 山田千祥紀, 渡邊海斗, 小野美鈴 (愛知県), 徐天穎 (京都府), EMAMAMIR IBRAHIM ISMAIL (鳥取県), 中原貴臣, 中村千里, 武田尚馬, 松田倫果 (岡山県)

◇外国会員入会: ROSTIANA OTIH (インドネシア)

## 住所変更等

◇普通会員: 熊谷健夫 (北海道), 横田侑子 (茨城県), 濱崎甲資 (千葉県), 法隆大輔 (東京都), 飯牟礼隆 (東京都), 藤郷誠 (東京都), 松元哲 (神奈川県), 味谷雅之 (静岡県), 西山典秀 (静岡県), 新倉聡 (滋賀県), 片野和馬 (滋賀県), 瀬川天太 (京都府), 島村聡 (熊本県),

◇学生会員: WENG YUANJIE (神奈川県)

## 逝去

村松幹夫 (岡山県, 名誉会員), 大西近江 (滋賀県)  
慎んでご冥福をお祈りいたします。